

すくすく のびのび いきいき

平成 27 年 11 月 第 11 号 発行：赤穂市教育委員会 ☎ 0791-43-6857

第3回 赤穂市「いじめ・暴力追放」市民大会を開催しました

「いじめ・暴力」のない学校・まちづくりをめざし、市、教育委員会主催のもと、8月9日（日）赤穂市文化会館で開催されました。

市内小中学校の代表児童生徒・教員、PTA等各種団体、地域の方々約650人が参加しました。

大会冊子には、各校の生徒会やPTAの取組報告が掲載され、当日の運営は、市内中学校生徒会を中心に行われました。

1 経過報告「いじめ対策マニュアルについて」

「いじめはいつでもどこでもだれにでも起こりうる」と認識し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」を基本に教育委員会が「いじめ対策マニュアル」を策定し、有田次秀市教育相談指導員によって解説されました。基本方針や迅速で丁寧な対処方法、児童生徒のチェックリストなどの内容が盛り込まれ、これをもとに各学校の実情に応じていじめ対策に取り組むことを確認しました。

2 研修「小中学生における携帯・スマホ問題」



兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課の本田英理さんを講師に招き、5人の中学生がステージに上がり、「携帯電話・スマートフォン」の現状、課題、今後について考えました。「ライン」や「ツイッター」等コミュニケーションをとるのに便利なアプリではあるが、使い方に気をつけないと自分の位置情報や話した内容が他の人に確認されてしまう恐れがあることなどをわかりやすく説明してくださいました。

3 シンポジウム「いじめのない学校づくり」

兵庫県立大学環境人間学部准教授竹内和雄先生の進行で市内5中学校から2名ずつ生徒がパネラーとして参加し、いじめのない学校づくりについて意見交流しました。市内全中学生を対象に行ったアンケートの結果をもとに、いじめに対する現状や思い

を生徒自らの言葉で語りました。そして、各学校の生徒会活動



の取組も紹介し、情報交換ができました。フロアの小学生が興味深く聞き姿が印象的でした。

4 大会宣言「いじめは許されない暴力である」

生徒交流会を通して練り上げられた「大会宣言」が力強く読み上げられました。これをもとに今後も各校で充実した取組が展開されることを期待しています。

～参加者からの感想～

子どもたちが自ら考えたり、学んだりしていくことは素晴らしいことだと思います。大人から教えられただけではわからないことも自分たちのこととして考えることで、より問題に対する意識が高まっていき、具体的に取組んでいるのだと思いました。パネラーの言葉に、自分たちが中心（発信）となり広がっていくということがありましたが、中心となる生徒の思いも強くなっているのではないかと感じ、各学校のそれぞれの取組が生徒全体に広がっていけばいいなと思いました。子どもたちが助けを求めてきた時には、対応できる大人としていられるように自分自身もなっていきたいと思いました。

幼稚園教諭と保育所保育士の短期交流



同じ校区にある幼稚園・保育所では、就学前の子どもたちが給食を一緒に食べたり遊んだりして交流をしています。

幼稚園と保育所の職員同士もお互いの仕事を知り、それ

ぞれの良さを取り入れることを目的に、職員交流として昨年度より行っています。

まず第1回目として、幼稚園の教諭が保育所に向き、保育士としての仕事を体験しました。

○基本的な生活の力をつけるために



身の回りの始末、遊び、片付けなど、毎日の基本となる生活の流れを子どもたちはよくわかっており、規則正しく安定して活動する姿に、低年齢から、積み上げていくことの大切さを感じました。

着替え等の置き場所、手洗い場、靴置き場等々、子どもの動線を考えて配置されており、身支度等一人でしやすいよう工夫されていました。また、「こ

うすればできるよ」「ここからは自分でやってごらん」などと自分でやってみたい、と意欲を持てるよう、支援のタイミングを大切にしていることがわかりました。一人でできた時の喜びは大きく、達成感や自信につながっていく姿も見られました。

○集団あそび

0歳も1歳児もみんなと一緒に喜んで体を揺らしてわらべうたやダンスに参加していました。低年齢でも集団遊びの大切さを感じました。

○ゆったり、じっくり



衣食住の確立のためにきめ細やかに一人ひとりとかわる保育士の姿勢を見ることができました。幼稚園では、4歳がスタートですが、子どもの成長というのは0歳からずっとつながっているのだということを改めて感じることができた交流となりました。

今回は、保育所保育士が幼稚園で保育に参加します。幼児の成長が連続していることを肌で感じながら、豊かな幼児教育につながればと考えています。

保育士有資格者研修会開催！

保育士の確保が課題となる中、赤穂市教育委員会では、資格を持ちながら保育所で働いていない潜在保育士の現場復帰を支えようと、昨年に引き続き、3回コースの研修会を開催しました。20代～50代の25人が参加しました。

第1回目 7月28日

保育所保育指針から保育所の役割や目標について講義を受けた後、市立保育所の保育士と乳幼児とのかかわりの姿など、映像を通して視聴しました。



第2回目 8月25日



現役保育士4人から、保育士になろうと思ったきっかけ、保育士の魅力等の話を聞きました。

「子育てをしながらの仕事ですが、先輩や仲間が助けてくれました」「昨年この研修会に参加して、やっぱり保育士の仕事に就きたいと思いました」最後に主任保育士から「みんなで助け合いながら一緒にがんばりましょう」と呼び

かけました。

また、即役立つ手遊び教材（軍手人形）作りを体験したり、心地よいリズムに合わせてわらべ歌遊びを体験したりしました。

第3回目 体験実習日（希望日）

希望された7名の方が希望する保育所で体験実習を受けました。「保育士として働いた経験がなかったので不安に思っていたのですが、かわいい子どもたちと接して力をもらいました」など、前向きな声が聞かれました。

昨年度の参加者の中から今年度は6名が市立保育所で働いています。また、今年度の参加者の中には、「子育て真っ最中なので今すぐ働くことは無理ですが、手が離れたら働きたい」という方が多くいました。

いつか働きたいという気持ちを持ち続けてもらうためにも、今後もこの研修会を続けていきたいと考えています。



姉妹都市ロッキングハムへ ～人のあたたかさにもふれました～



グローバル化に対応する人材育成をめざして赤穂市教育委員会は、「英語教育推進体制整備事業」として、市内中学生5名、市内小中学校教員4名を西オーストラリア州

ロッキングハム市へ8月17

日から23日までの7日間、派遣しました。
ロッキングハム市は、人口12万人の自然豊かな海岸に面した都市で、パース市のベッドタウンとして発展しています。赤穂市とは、平成9（1997）年に姉妹都市提携を結びました。ロッキングハム市庁舎前の通りは、「AKO LANE」（アコウレーン）と名付けられています。

赤穂からの9人の「小さな親善大使」は、「伝えたい」「話したい」という思いをもって、7日間の研修を深めることができました。

8月17日（月）

赤穂市役所前で「出発式」を行い、関西国際空港から出発しました。

8月18日（火）

早朝、シンガポールで乗り換え、パースに到着しました。午後ロッキングハムに到着し、ホテル付近を散策しました。時差はマイナス1時間です。現地の8月は真冬ですが、日本の秋口の気候でした。

8月19日（水）

○ロッキングハムシニアハイスクール訪問

現地の学校を訪問し、校内を見学した後、授業参観を行いました。日本の教育システムとの違いを知り、日本語を学ぶ現地の生徒と交流することができました。

○市庁舎での歓迎レセプション

サメルズ市長をはじめ、地元市議会議員の皆さん

が温かく迎えてくださいました。

8月20日（木）

○ショートトリップ

市職員の方に市内の観光名所を案内していただきま



ロッキングハムシニアハイスクール訪問

した。その後、地元の鉄道・バスを使ってパース等、近隣の町へ自分達の手で出かけました。

8月21日（金）

○ジョントンキンカレッジとの交流

生徒は、現地校の学生とペアになり、理科や美術、技術などの授業に参加しました。

教員は、日本語を学ぶクラスで日本文化を紹介する授業を行いました。

8月22日（土）

最終日。パース動物園でやっと「カンガルー」に出会うことができました。その後、パース空港を出発し、飛行機で約6時間、シンガポールに到着しました。



8月23日（日）

シンガポールから約7時間、大きな事故やトラブル無く帰国しました。



ロッキングハムの海

生涯学習指導者「まちの先生」の紹介

市では、シニア世代の方を中心に、市の事業（公民館事業、アフタースクール等）の中で、お持ちの専門知識や技能を生かしていただくため、生涯学習指導者「まちの先生」登録制度を開始しました。

これまでに、昔遊び、生け花、健康体操、リトミックなど、さまざまな活動ジャンルの登録をいただいております。今後市が進める様々な生涯学習関係事業の場で活躍していただく予定です。

写真は、まちの先生にご協力いただき8月27日に赤穂アフタースクールで行われた木工教室の様です。

子どもたちは、普段手にすることのない、金づちや釘などの工具に最初は少しとまどいながらも、まちの先生に手取り足取り教えてもらい、一生懸命工作に取り組み、旗揚げ人形を作っていました。



赤穂市立有年考古館で夏休みイベントを開催しました！

赤穂市立有年考古館では、小中学校の夏休みに合わせ、企画展を開催するとともに、様々なイベントを行いました。

夏休み企画展の開催

7月17日から9月4日まで、親子で有年の史跡めぐりを楽しめる企画展「うにゅちゃんからの指令 有年の史跡の謎を解け！」を開催しました。館内だけでなく周辺の史跡を巡ってクイズに答え、正解数に応じて文化財パーパークラフト素材等をプレゼントしました。参加者からは好評で、来年度以降も内容を充実させつつ継続的に実施していきたいと考えています。



展示風景

ウォークラリーの開催

企画展の関連イベントとして、有年原周辺の遺跡をめぐるウォークラリー「有年の史跡 謎解きウォークラリー」を開催しました。実際の古墳などを見学しながら学芸員の話聞くことで古代へのイメージがよりつかめたのではないかと思います。

夏休み親子体験教室の開催

8月8・22・23日の3日間で、銅鐸づくり、勾玉づくり、ガラス玉づくりの体験教室を開催しまし



体験教室風景

た。銅鐸づくりは融点の低い合金を実際に溶かし、鋳型に流し込んで銅鐸の形にするもので、金属が溶ける様子を初めて見た子どもたちは大変興味深く体験していました。

勾玉づくりはやわらかい石を削って、思い思いの形のオリジナル勾玉を製作し、好きな色を付けてアクセサリーにしました。組み紐とあわせて作ることで、ペンダントにできたことを喜んでいました。

ガラス玉づくりは、溶かしたガラス棒を鉄芯に巻きつけて製作したもので、簡単にきれいなガラス玉を作ることができるものです。1人分の材料でたくさんガラス玉ができるので、それぞれ工夫しながらいろいろな色のガラス玉を製作していました。

有年考古館では、子どもだけでなく大人も参加できる体験教室など、さまざまな工夫を凝らした展示、イベントを開催してまいりますので、皆さまのご来館をお待ちしております。今後の詳細は有年考古館のWebサイトをご覧ください。

郷土資料のデジタル化

数年前に電子書籍リーダーが登場した時には、紙の本に変わって1台で1,000冊の本が持ち運べることに衝撃を覚えました。現在、電子書籍は、パソコンの他、タブレット、スマホなどを利用して、いつでもどこでも読めるようになってきています。

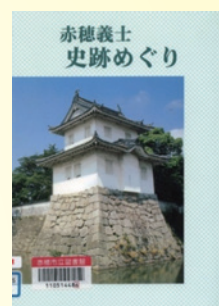
市立図書館では、平成25年10月に電子図書館サービスを導入してから約2年が経過しました。この電子図書館サービスは、図書館が購入した電子書籍等のデジタルコンテンツを利用者が自宅で無料で読むことができるサービスのことです。

デジタルコンテンツには、出版社保有の商用コンテンツ、郷土史などの地域資料や情報発信資料などがありますが、公共図書館が購入できる電子書籍は、紙の本に比べると所蔵数はまだまだ少ない状況です。現在、約2,300点を所蔵しています。

一方、国会図書館や大学図書館などでは、10数年前から貴重資料や地域資料などのデジタル化が進められ、多くの貴重資料などがパソコン等で閲覧できるようになっており、他の公共図書館でも同様に地域資料などのデジタル化の動きが出てきています。

市立図書館においても、電子図書館サービスの導入を契機として、郷土資料や行政資料等の地域資料について、徐々にではありますがデジタル化を進めているところです。

今後も、随時、郷土資料等の地域資料について、デジタル化を図っていききたいと考えています。



デジタル化された「赤穂義士史跡めぐり」